

講義名	キャリア実践論（4年生のみ）		
担当教員	中山 一郎		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	演習
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

大学生は、就職という社会への入口に不安を抱いている。学生は多種多様なスキルを評価する就職試験にも戸惑いがある。就活はスタートラインである。「何のために働くのか」という働くことの意義を自覚し、その上で社会・企業が求めている社会人基礎力を中心とした知識と能力を自ら磨いていくことが大切である。就活は3年生の後期から準備が始まり、4年生の前期まで続く（未決定の場合は卒業まで続くこともある）。就活対象者は自分の強さや長所を再認識し、志望理由を明確化させる必要がある。また企業が期待する求める人材像やコンディショナーを理解し、自己成長の目標に挑戦していくことが重要となる。授業概要は、自分の強み・弱みを知ること（自己PR）。また、働くことの意義（価値観）、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること。さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、会話力（面接・グループディスカッション）を高めるために、実践的な演習を交えて展開する。

### 到達目標

【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染発症または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が困難となった学生には、別途個別に相談しながら対応していきます。ただし、状況によってはシラバスが変更する可能性もあります。

到達目標は、「なぜ働くのか」「あなたの強み」「あなたにとってよい会社の条件」の間に、しっかりとした考え方を身につけることです。その上で自己PRの作成方法と会社選びの基準づくりを学び、総合的な就職力を高めることができますようになります。

- ・SPI等の筆記試験対策で得意、不得意な分野を自己評価することができますようになります。
- ・自分の強さ・弱さの分析から自己PRをまとめることができますようになります。
- ・業界企業を分析し、自己PRと志望動機をつなげていくことができますようになります。
- ・就職力を高め、自分の立てた目標設定と就職戦略を策定することができますようになります。

### 提出課題

毎回授業後に「リアクションペーパー」を提出してもらいます。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

「リアクションペーパー」を提出をした翌回の授業冒頭において、必要かつ可能な範囲でフィードバックを行います。

### 評価の基準

リアクションペーパー（75%）  
基礎能力テスト/SPI 適性検査（10%）  
平常点（15%）  
15回の授業のうち3分の1以上（5回以上）の欠席者については成績不可とします。  
を総合的に評価します。

### 履修にあたっての注意・助言他

月1の「キャリア実践論」も同じ名称の授業ですが対象は3年生ですので、4年生は火2の「キャリア実践論」を必ず履修してください。

教科書				
.エピソードの就活～キャリアカウンセラーが教える7つのステップ～	中山一郎	晃洋書房	1,900円(税別)	978-4-7710-2829-6

### プリント資料及び参考文献

プリント資料及び参考文献に関しては、使用する際に適宜配布、紹介します。

### 授業計画

- 回数と授業計画
- 1 プロローグ～キャリア実践論のねらい～
  - 2 就職活動のキホン(1)～就職活動は科学である～
  - 3 就職活動のキホン(2)～就職活動の流れを知る～
  - 4 自分づくりのキホン(1)～オンラインフォーマル・アセスメント編～
  - 5 自分づくりのキホン(2)～フォーマル・アセスメント編～
  - 6 企業研究のキホン(1)～会社とは何か～
  - 7 筆記試験/SPI 対策のキホン(1)
  - 8 筆記試験/SPI 対策のキホン(2)
  - 9 企業研究のキホン(2)～求人の読み方～
  - 10 ビジネス研究のキホン(1)～私と企業をつなぐ業界・業種選び～
  - 11 ビジネス研究のキホン(2)～私と企業をつなぐ職種・仕事選び～
  - 12 履歴書・ES対策のキホン(1)～自己 & ガクチャの書き方 & 伝え方～
  - 13 履歴書・ES対策のキホン(2)～志望動機の書き方 & 伝え方～
  - 14 面接対策のキホン(1)～集団面接にチャレンジしよう～
  - 15 面接対策のキホン(2)～グループディスカッションにチャレンジしよう～

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A/L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 授業に関連する本や新聞記事や雑誌を読んだり、ニュースをチェックしたりする習慣を日常的に付け、特にキャリア・就職・労働・雇用・ビジネスなどといったキーワードには注目するようにしておく（毎回1時間）
2. 授業で学んだことの復習や実践（毎回2時間）
3. 基礎能力試験（SPI適性検査）対策（毎回2時間）

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

当該科目は、自分の強み・弱みを知ること（自己PR）。また、働くことの意義（価値観）、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること。さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、会話力（面接・グループディスカッション）を高めるために、実践的な演習を交えて展開することを目的とした授業であり、「働く目的と仕事観の醸成、自身の適性と適職探し、職種と業界の特性分析等を体系的に行うとともに、就職力を高めるための実践的科目」というキャリア科目のびとまさに含致していると考えます。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

質問やアンケートを「レスポンス」で回答してもらおうことがあります。

### 実務経験の有無及び活用

実務経験あり  
具体的な事例やケーススタディーを紹介します。

### 備考